

横須賀市長

上地 克明



この度、特別養護老人ホーム横須賀椿園が、開設30周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

30年もの長きにわたり皆様には、地域の高齢者福祉に多大なご貢献をいただいております。深く敬意を表しますとともに、この場をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。

さて貴会は開設以来、地域にとってかけがえのない存在としてあり続けてこられました。コロナ禍における困難な時期にも、職員の皆様が一丸となり、入居者の方々に安全と安心を届けてこられたと伺っております。

併せて入居者の方々が、笑顔と安らぎの中で日々を過ごされていること、それが家族の皆様には大きな安心をもたらしていること、そして何よりも「ここで過ごしてよかった」と思える、温かな居場所を提供されていることに、重ねて深く敬意を表するものです。これは、多くの入居者のお一人お一人と真摯に向き合い、時にはご家族以上の存在となって、思いやりあふれるケアを続ける、職員の皆様の絶え間ないご尽力の賜物だと感じております。

また、貴会は、地域で立ち上げられた認知症カフェへの運営の協力や職員の派遣に加え、地元町内会と防災協定を結び、災害時の相互の協力体制を構築するなど、地域とのつながりを大切にされ、開かれた福祉の拠点として発展してこられました。

横須賀市では現在、まちづくりに3つのグランドデザインを掲げ、様々な施策を展開しておりますが、行政の最大の目的は、「住民福祉の増進である」との思いで、日々、市政運営に邁進しております。このような中、貴会のように地域とのつながりを大切にし、開かれた福祉の拠点として、長年にわたり地域の福祉ニーズに幅広く対応いただいていることは、市民にとって大きな支えとなっています。

市としましてもこれまで以上に、福祉の増進に尽力していく所存でありますので、是非、皆様におかれましても、引き続き変わらぬお力添えを頂戴できましたら幸甚です。

結びに、改めまして開設から30年の長きにわたるご貢献に、心からの感謝を申し上げますとともに、今後も貴会が、地域に根差した福祉の担い手として、更なるご発展を遂げられますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。この度は、誠におめでとうございました。

祝辞

武山地区社会福祉協議会

会長 永嶋 律子



横須賀椿園創立30周年おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

緑豊かな武山の地に、生活環境も良く、高齢者が安心して暮らせるよう、総合的な福祉サービスの提供と、優しい心遣いのある貴施設は、素晴らしいと思います。私が初めて会議で訪問した折、会場には立派な絵が飾られていました。日頃、施設長とお会いした時に感じる広い心で人を包み込むような雰囲気似て、大きく枝を広げた椿の絵が出迎えてくれたことが印象的でした。きっとこの施設の利用者様は、希望を持って安心して生活が出来るのではないかと思います。

以前、私の知人が貴施設にお世話になっていて、面会に参りました際、彼女は嬉しそうな表情で「今、大変幸せです」と話していました。私は安心しました。貴施設ではその人らしい生き方を心がけて下さっているよう感じました。

30年の長きに渡る施設の運営は、喜びはもちろん、幾多の困難にも直面された事と想われますが、それを愛と努力で乗り越え、継続されて来られた理事長をはじめ、関係者の方々に心から敬意を表します。

これからも高齢化が進み、大変重要な期待される分野の事業かと思えます。地域福祉のため、皆様のため、末永く続けていただきたいと思えます。

結びに、長年の社会貢献に感謝申し上げ、併せて横須賀椿園の益々のご発展と皆さまのご健勝を祈念申し上げます。

大楠地区社会福祉協議会

会長 長塚 武士

創立30周年記念によせて



特別養護老人ホーム横須賀椿園創立30周年を心よりお祝い申し上げます。さて、30年を振り返りますと、平成7年に社会福祉法人宗得会が設立され、その年の10月には特別養護老人ホーム横須賀椿園、さらにケアセンター、居宅介護支援センター、グループホームつばき、デイサービスセンター椿の開所等、次々と福祉事業を拡張され、地域高齢者福祉に多大なる貢献をされてきている状況が伺われます。

また、平成18年には地域包括支援センターを横須賀市より委託され事業開始。それまであまり接点のなかった横須賀椿園と大楠地区社協の交流が始まり、平成24年、西第一地域包括支援センターに多大な協力をいただき「第1回大楠なんでも文化祭」が、開催できましたことは、この上ない思い出となっております。

さて、人生100年時代到来といわれており、今後しばらくは、高齢者福祉、なかでも医療・介護に携わる事業所（者）の役割は大きいものと思われます。どうかこれからも地域高齢者福祉にご尽力いただきたく、お願い申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

社会福祉法人 宗得会 沿革

平成7年2月13日
1995年

社会福祉法人宗得会設立

平成7年10月4日

特別養護老人ホーム横須賀椿園開所

平成8年1月1日
1996年

横須賀椿園ケアセンター
短期入所生活介護事業開始



建築中の椿園

平成8年4月1日

横須賀椿園ケアセンター
通所介護事業開始

平成9年4月1日
1997年

横須賀椿園在宅介護支援センター開始
(平成18年9月30日廃止)



竣工後の椿園外観

平成10年4月1日
1998年

横須賀椿園ケアセンター
訪問入浴介護事業開始
(平成28年3月31日廃止)

平成11年8月2日
1999年

つばき園居宅介護支援センター事業開始

平成12年4月1日
2000年

介護保険法施行に基づくサービスへ移行
(措置から契約へ)



竣工披露

平成15年4月1日
2003年

グループホームつばき開所 (2ユニット)

平成18年10月1日
2006年

地域包括支援センターを横須賀市より受託
(令和5年3月31日受託終了)



訪問入浴車

平成19年11月1日
2007年

デイサービスセンター椿開所 (2単位制)
(平成29年3月31日2単位制廃止)

平成23年4月1日
2011年

デイサービスセンター椿 認知症対応型通所介護事業開始

平成27年 春
2015年

広報誌 椿だより第1号創刊

令和3年12月
2021年

横須賀椿園 大規模修繕 (空調設備)



1階デイサービスホール

令和4年2月
4月
2022年

ICT導入 横須賀椿園内Wi-Fi整備
大規模改修 (浴室・給湯設備)

30周年記念鼎談

テーマ「横須賀市西地区、高齢者・児童福祉
30年の歩みとこれから」



宮田 丈乃
社会福祉法人 長井婦人会
長井婦人会こども園 園長



森 弘樹
社会福祉法人 富士美
高齢者総合福祉センター
ヒューマン 施設長



浅葉 統太
社会福祉法人 宗得会
横須賀椿園 施設長

～30年の歩み～

浅葉施設長）※以下役職略

本日は、社会福祉法人宗得会30周年記念鼎談にご来園いただきまして、誠にありがとうございます。

今回30周年を記念して、同じ西地区にある高齢者総合福祉センターヒューマンの森施設長、長井婦人会こども園の宮田園長にお越しいただき「横須賀市西地区、高齢者・児童福祉30年の歩みとこれから」についてお話しを伺いたいと思います。本日はよろしくお願いします。

横須賀椿園は平成7年10月に開設しました。この当時は、まだ特別養護老人ホームは措置制度の時代でした。では、森施設長がこの時期で印象に残っていることをお話いただけますか。

森施設長）※以下役職略

まずは30周年おめでとうございます。平成9年、ヒューマンができた当時は横須賀市の特養のベッド数がまだ足りませんでした。目標の900には300から400足りなかったのかな。あの当時は、元気なお年寄りが多く、色々な行事を盛大にやりました。外出もよくしました。あの頃はまだ認知症という言葉もなく、痴呆症と言ったり、今はダメだが「おじいちゃん」「おばあちゃん」「かわいい」という感覚もありました。それから介護保険制度が始まり、行政処分の措置入所ではなく契約となってきちんとサービスを提供するという風になり、随分時代も変わりました。

浅葉）昔の方が、のんびりした雰囲気はありました。保育もどのように変わりましたか。

宮田園長）※以下役職略

昭和の終わりの頃までは、第二次ベビーブームもあり、子どもが多かったですが、平成になり落ち着いてきて、今度は女性の社会進出という時代が変わってきました。その中で国が新エンゼルプランを作って、子育てをしながら仕事が続けられる社会を目指すようになりました。本当は少子高齢化時代に入ってきているのですが、0歳児という低年齢のお子さんの保育の需要が高まりました。そんな中、待機児童0推進が平成13年から始まっています。またそれに合わせて平成27年に子育て支援新制度ができ、制度が措置から給付に変わりました。

浅葉）社会福祉は児童保育・高齢が時代のニーズに合わせて変化しているという流れですね。

森）措置制度から契約制度になって、経験や気持ちで介護することができた時代から、科学的な介護を求められるようになったなと感じます。仕事量も増えた気がしますね。

宮田) 保育はICTについては10年くらい遅れていますね。

森) 今はもうITやICTの導入は待ったなしですね。それにより仕事の省略化をして、時間を利用者に使うようにする。職員の負担を減らして定着率を高める。有給休暇をもっと取れるようにするとか、そういうことはできるかもしれませんね。

浅葉) 基本的に必要人数は変わらないけれど、いかに業務を効率化させるかが1番大切なところですね。



宮田) 保育は最長11時間なのですが、働き手の働く時間は8時間です。その中で、いかに効率よく人員配置ができるのか。効率のいい運営ができるのか、働きやすい職場を作るのが大事ですね。

浅葉) 契約制度になって、経営の概念というものが必要になりました。

森) 介護保険料を納めて、権利として介護サービスを利用できるようになり、民間の事業者も参入してきました。株式会社でも介護サービスを提供するようになりました。利用する側にとっては選択するサービスが増えましたが、我々からすると競合が増えました。そういう中で、どうやって経営を行っていくのかをより考えるようになってきました。

宮田) 保育では、横須賀市も少子化が進む中で、平成27年に横須賀市子ども未来プランを作りました。

そして同時に、子ども子育て支援新制度が施行され、初めて保育園と幼稚園が一体的にできる認定こども園制度が10月に始まったのです。これにより多くの保育園、幼稚園が参入してきました。

今は保育園、認定こども園、幼稚園という3本の柱になっていますよね。

浅葉) 介護保険制度が施行してから今日まで、様々な制度改定が行われてきました。その中で、特養に大きな変化をもたらしたのは看取りですかね。椿園が開所した当時は、施設で亡くなるというよりは、具合が悪くなると病院に入院されて、病院で亡くなる方がほとんどでした。これが平成18年の制度改定によって、施設での看取りが推奨されるようになりました。その頃から特養は終の棲家と言われるようになり、施設で最期までお世話をさせていただくようになっていきました。今では9割以上の方を園で看取っています。

森) 以前は、特養で看取するという概念はなかったのが、18年の改定で国が特養を終の棲家として認めたのだと私は思っています。今のヒューマンでは、年間20%から25%くらいの方が亡くなって退所となるのですが、病院で亡くなる方はほとんどいません。

また、入所時から施設で看取することを前提で入ってくる方も結構いて、入所されて1~2ヵ月で亡くなるということもありますね。



浅葉) 自宅で限界まで見て、最期に施設で短い期間ですけれど、安心して看取りを行うという新しい1つの形になってきたのかなと思いますね。

森) 逆に最期の最期に自宅に帰るというパターンもあるんですよ。1週間とか10日とか。最期だけは家族が見送りたいという、そういうご相談もあったりしますね。

浅葉) 制度と共に色々なことが変化しましたよね。

～横須賀市西地区の「いま」～

浅葉) では、後半は横須賀市西地区について話をしていこうと思います。まずは、この西地区をどのように捉えているのか伺います。

森) 自然が豊かで食べ物も美味しく、生活していくには交通の不便さはあるけれど、良い場所ですよ。地域との繋がりは強く、例えば、佐島や芦名でお祭りに声をかけてもらえたり、施設もそのエリアごとに地元の方と一緒に介護予防教室を行ったりしています。その時には地区社協の方も一生懸命手伝ってくれています。

浅葉) 西地区は高齢者施設も多いですね。特養は横須賀市全体で20施設あるのに対し、西地区に8施設が集中しています。高齢福祉の拠点となる場所が色々なところにあるのでそれぞれ地元をカバーしていければ、かなりの地域をカバーできるはずです。そういった利点を活かせば、西地区の福祉にとってプラスになっていくのではないかと感じているのですが、宮田園長は西地区をどう捉えていますか。

宮田) 人情が厚いですよね、声をかけあったり、挨拶運動とかいつも誰かが見守ってくれていたり、住みやすい地域だと思います。ただ、大型スーパーが出来たが故か、地域の商店が消えてしまって、ご高齢の方は買い物が大変じゃないかなと思います。高齢になって車が運転できなくなったら買い物をどうするか、困りますね。そこで、保育では自分たちの街造りや、地域の魅力発見・発信のための冊子を作りました。行政センターに置いたり、園に数冊置いて保護者に見ていただいたり、それぞれの関係機関にもお配りしています。

森・浅葉) それは良いですね！
我々も真似しましょうか(笑)



宮田) 私は長井に平成11年に来てから、長井の人口動態を見ていますが、平成12年と今では、すごく人口が減っています。ただ、逆に高齢者数は増えているのです。人口は、この30年で長井だけで2,000人以上が減っています。今後更に人口減少傾向が何え、地域の皆様も懸念されています。逆に高齢者はこの30年で1,000人以上増えています。また、不思議な現象ですけど、世帯数は増えているのです。

浅葉) 横須賀市全体に言えるのかもしれませんが、若者がいざ就職しようとする時に、市外に出てしまう。そういったところも課題になっていますね。

～横須賀市西地区の「これから」～

浅葉) それでは、西地区のこれからについても伺います。先ほど課題もあがりましたが、これらに対応していくには1つの法人では難しくても、法人間の共同や連携があることで、実現できることもあるのではないのでしょうか。国は、社会福祉推進連携法人制度として、地域共生社会実現に向けて動き出しています。色々な施設が共同して効率化を図り、人材の確保や教育などを協力してやっていけば、小さい法人でも集まって、1つの法人では出来ないこともできるようになるのではないのでしょうか。

宮田) セっかく西地区にこれだけの施設数があるのですから、高齢者・保育の施設長同士の連絡会や交流会を定期的に行えれば、また新たな展開もあるかもしれないですよ。セっかくこんな機会をいただいたので、それができたら地域の皆さんにも安心していただき、こんな連携ができているのだとお示しできるのではないのでしょうか。

森) 宮田園長が言われたようなことをやってみたいと思います。我々は社会福祉法人として、困っている人を助けるという、その1番根本を忘れないようにしたいですし、それを業種の垣根を越えて、皆でやっていければ、結果として住みやすい地域になっていくのではないのでしょうか。

浅葉) これこそが地域共生社会を構築する上で、国が求めていることであり、魅力ある地域づくりの1つだと思います。



宮田) まず西地区から発信していきたいですね。そうすれば高齢者福祉・保育が身近な仲間となれるでしょう。

浅葉) これだけの施設が西地区にはあるので、その広がりとは他の地域にはない利点ですよ。皆、福祉の仕事をしている者として同じ志を持たれていると思うので、協力できるものと思います。

宮田) 自分たちの法人の中だけだと小さな考えですが、地域に広がりを持てるともっと考えが広がりますね。

森) それで皆さんが安心して住めるということになれば、そんな良いことはないですよ。

浅葉) それこそが我々の使命であると思います。

宮田) 西地区に明るい未来を！施設間の連携は是非やっていきましょう。

浅葉) これが西地区の発展に繋がれば最高ですね。今後、子どもから高齢者まで、安心して生活できる地域を作っていけるように、私たち社会福祉法人が地域共生社会の構築に向けて担う責任は、非常に大きいと思います。これからも垣根を越えて和をもって、西地区および横須賀市の福祉の発展に努めていきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

